平成２２年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立豊浦中学校　教諭　濱田真実

１　派遣期日　　平成２２年１０月１４日（木）～１０月１５日（金）

２　研修先　　神奈川県横浜市立吉田中学校
横浜市中区羽衣町３－８４
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ihs/yoshida/

３　研修内容

第４９回関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会　神奈川大会 研究主題「いきいきと学び，生活を主体的に営む力をはぐくむ指導の工夫」

４　研究の内容

《目指す生徒像》
『いきいきと学び』→『自ら課題を発見し，進んで学習に取り組もうとする姿』
『生活を主体的に営む力』→『学習から得たことを実生活で実践する姿』

《研究の内容》
（１）３学年間を見通した指導計画の作成
社会の変化や家庭の多様化を踏まえ，地域や家庭を取り巻く状況に着目して，様々な問題に対応できる力を育てる指導計画が作成されている。３学年間を見通して，子どもたちにとってどのような知識と技術，価値観の伝達が必要なのかを考え，具体的な学習内容や指導方法を工夫し，題材が意図的に配列されている。また，教師の視点から生徒の視点へと思考を変え，生徒に考えさせる問題解決的な学習がより多く取り入れられている。
・社会の変化に伴う生徒の実態や家庭のニーズに対応できる内容
・生徒が興味・関心を高め，学習意欲の向上を図ることができる内容
・基礎的・基本的な知識と技術を十分に押さえている内容
以上３点の項目に配慮し，いきいきと学び主体的に営む力を育成できるように題材を配列していた。

（２）問題解決的な学習の展開
問題解決的な学習の展開の工夫として，授業では条件を設定し，生徒が自分自身の課題を発見できるような工夫がされている。
簡単なものから難しいものへと内容が発展していき無理なく学習が進められるように配慮されている。
問題解決的な学習を繰り返し行い，積み重ねていけるように題材の配列が工夫されている。
「生活の課題と実践」を適切に位置づけ，休日や長期休業の前後に，計画と発表を入れ，時間をかけてできる課題が設定されている。
『和服』『調理の応用』『地域の食文化』『幼児の絵本』などの題材を取り上げ，「生活の課題と実践」として取り組ませている。

（３）小学校・中学校の連携

小学校・中学校の円滑な接続を図るために学習の始めにガイダンスを行い，生徒自身の成長や各自の小学校で学んだことを振り返りながら目標を立て，具体的な見通しをもって学習に取り組めるようになっている。

小学校の家庭科担当教師と情報交換や授業参観を行い，小学校と中学校の内容の確認や指導方法について研修を行っている。

（４）学習指導と評価

主体的に営む力を育むために生活知識と技術等の習得状況がわかるよう『自立度チェックシート』を作り，学習のまとまりごとに自己評価させている。自分の自立度の変容を生徒自身がチェックし，これからの自分に必要な知識と技術は何かに気付けるように工夫されている。

（５）授業発表　　題材名「浴衣を着て考えよう」

平成２４年に全面実施される新しい学習指導要領では「伝統と文化の尊重」という中央教育審議会の答申を踏まえた改訂の基本方針をうけて衣生活にかかわる指導内容として和服を扱うことができるようになった。

吉田中学校は近くに横浜中華街があるなど，国際色豊かであり，外国人生徒も多く在籍している。

日本の伝統衣服である浴衣を実際に着てみることで普段着ている洋服との違いだけでなく，その特徴やよさについて理解を深めさせることをめざす授業が展開された。

〈出会う〉→〈見つめる〉→〈深める〉→〈まとめる〉→〈つなげる〉で学習過程が設定されており，本発表は〈見つめる〉〈深める〉の段階として，ゲストティーチャーを招いて浴衣を実際に着用する体験が盛り込まれた授業が展開されていた。

国際色豊かな生徒たちなので，浴衣を初めて着用する生徒は大変興味をもって授業に取り組んでいた。また，浴衣に慣れ親しんでいる日本人生徒は，友だちの着用を積極的に手伝う姿もあり，生徒の活動が大変活発な授業であった。

５　感想

平成２４年度完全実施の新学習指導要領では，自己と家庭，家庭と社会とのつながりという「空間軸」の視点と，現在から生涯を見通した「時間軸」の視点を踏まえて，相互に有機的な関連を図って題材を構成することで家庭生活を総合的にとらえるようにしていくことの重要性が示されている。

茨城県教育研究会家庭，技術・家庭教育研究部県北地区研究会においても，『「ストーリー性」のある３学年間の指導計画の工夫』をテーマに，昨年度の茨城大会に向けて，教育課程の研究に取り組んできた。

今回の神奈川県における教育課程の研究と，茨城県における教育課程の研究は，最終的に目指す方向性は同じである。いろいろな指導の可能性を考えて題材が構成されており，様々な角度からより効果的に指導が展開できるように手立てに工夫がなされていた。

指導計画を構成するにあたっては，指導者側が単に３学年間の見通しをもつだけでなく，どのような生徒像を目指すのか，その生徒像を実現していくためにはどのように題材を配列し，ひとつひとつの授業をどのように展開すべきか，具体的なイメージをもつことが必要であることを強く感じた。

このような研究発表に参加する機会を得て，数多くの研究発表や実践事例にふれ，より具体的なイメージをもって，日々の家庭科指導にあたりたい。